

ニュースレター

あみ ami



第2号 2016年（平成28年）8月30日発行

今号のトピック

1. 圏域レベルの協議体
2. 南部まちづくり応援協議会
～お顔ぶれ～
3. 地域の皆さんが参加しています
～ワークショップの様子～

タイトルの「あみ」って？

amiはフランス語で「仲間・友だち」。いま私たちが取り組み始めたのは、身近な地域での仲間づくり・楽しい参加の機会づくり。年齢や立場を問わない、気軽な出会いと心地良いゆる～いつながり。それをみんなで手作りしていく過程は、まるで「編み」作業のよう。その過程もお伝えしていきます。

1. 圏域レベルの協議体

このたび、当センターの担当エリア（圏域）にひとつの協議体が誕生しました。その名も「南部まちづくり応援協議会」。御所野、御野場・四ツ小屋、仁井田の各地区で様々な地域活動に携わっている方々からなる、圏域レベルのネットワークです。今回はこの協議体の役割について紹介します。

前号でも触れましたが、現役世代が減るなかで世代を問わずみんなが安心して暮らし続けられるかどうかは、私たちが健康であり続けられるか、限りある公的サービスだけでなく私たち住人も地域の当事者として参加する「地域資源＝支え合う地域力」があるか、が大きく左右します。

これからは、健康や人のつながりを意識した「参加の機会の充実」と、その機会の「身近さ・継続性」が鍵になります。年齢を重ねて出歩くことが多少大変になっても地域で孤立せず、気にかけて合うつながりや交流を通し

て日々の暮らしに潤いをもたらす様々な選択肢を身近に持っておこう、ということです。

協議体では、地域の私たちが参加したくなる・続けたい「健康と暮らしを支え合う選択肢」を育むため、①地域資源や可能性をよく知る②これから必要なことの整理③実現方法や課題解決への提案、を担いSC（第1号参照）をサポートします。

ポイントは「圏域単位の検討」と「住民視点」です。私たちは日ごろ学区内や地区内だけで暮らしている訳ではないので、近隣の地区を含めた生活圏域で考えます。ただ身近な地域資源を検討するには地区によって異なる状況もあるでしょう。協議体では各委員がそれぞれの地区で暮らしているからこそ見える状況・地域の声を持ち寄って、実現に向けた課題やアイデアなどを検討していきます。

協議体は、「これからもここで暮らし続けたい」を私たちみんなで叶えるためのまちづくり応援団なのです。

2. 南部まちづくり応援協議会

※委員は全9名。前列左から

- | | |
|-----|------------------|
| 委員 | 関谷和子さん（御所野） |
| 委員 | 藤田正博さん（御野場） |
| 副会長 | 相場利治さん（仁井田） |
| 会長 | 小林一三さん（御所野） |
| 副会長 | 鈴木勇さん（四ツ小屋） |
| 委員 | 佐藤聖三さん（仁井田） |
| 委員 | 小川卓也（地域包括支援センター） |
| 委員 | 高橋美和子（SC） |
| 委員 | 福田亨さん（介護事業者） |
| 事務局 | 阿部公一（地域包括支援センター） |
| 事務局 | 赤坂順子（地域包括支援センター） |



3. 地域の皆さんが参加しています

私たちが将来も健康で、たとえ一人暮らしでも日々楽しみや安心のある暮らしを続けるために、私たちの身近に「どんなこと・もの」があればいいですか。またそれは「どうすれば」手に入れますか。

これは人によってその思いや発想・それぞれの地域の状況もあるので、答えもいろいろ。でもその思いや発想・情報を集めて整理しない限り、私たちの思いに沿ったカタチでの実現もまた難しいでしょう。

いま当センターではSCを中心に、地域に出向いて「これからもこの地域に住み続ける当事者」の立場から、皆さんの思いやアイデアを伺っています。今回は、去る8月5日に南部市民サービスセンター（なんぴあ）で開催した、地域でのワークショップ（座談会）の様子をご紹介します。

今回参加されたのは、御野場・四ツ小屋地区にお住まいの方々。これからの身近な地域での健康と交流の機会を「いま一度考えてみたい」「関心がある」としてご参加頂きました。そこで出された皆さんの思いやアイデアには...



●こんな場が欲しい

- ・自宅での健康トレーニングを続けるのは意外と大変。月に数回、みんなで集まって活動できたらいいな
- ・いろいろな人が集まれる場であって欲しい
- ・スポーツだけでなく、楽しい内容があるといいよね
- ・歩いて行ける、身近な場・選べる機会がたくさん欲しい
- ・少なからず参加費を払ってもいい、タメになる話や運動を教えてくれる講師がいたら嬉しい
- ・畑など体を動かす機会を持っていない人は、普段から体を動かす機会を求めているんじゃないかな
- ・秋田では人が集まる機会が少ない感じ。集まって話をするだけでも楽しいもんだよ



- ・居場所作りをサポートしてくれる人は欲しい。私も協力したい
- ・どこにどんな活動があるのか、参加したい時の窓口になる人が分かるような情報があるといい
- ・地域の若い人も入れたい。きっと活動も続いていくはず
- ・冬場はどうしても外出が難しい。町内ごとなど、近場に気軽な参加の機会を増やそう

●こんなアイデアが

- ・気軽に集まれる場を増やして、どこでも毎回少しは運動メニューがある
- ・長い時間でもいられればデイサービスに替わる居場所になるかも
- ・活動費は参加者が負担したら？会費制ならもったいなくて休まずに行けそう
- ・地域の居場所作りをみんなでやれば、一人にかかる負担は軽くなるはず

●皆さんの声も聞かせて

こうした皆さんの声の実現へのスタートです。皆さんの思いを発信しましょう。当センターでは5人以上（町内会・サークル等）集まる場合には、無料で「出張講座」「ワークショップ」の講師派遣をしています。お気軽にご相談ください！

ホームページのご案内

この広報紙は当センターのホームページでもご覧いただけます。市民向け、医療・介護職向けのご案内もありますのでご活用下さい。アドレスは…
akita-keyaki.or.jp

お詫びと訂正

6月発行の第1号「2.秋田市の将来の姿」の文中で「24年後の2024年」とありますが、「2040年」の誤りでした。訂正してお詫び致します。



編集後記

夏も終わりに近づき、秋の虫の声が聞こえ始めました。お盆には里帰りした方、お迎えした方それぞれに、故郷や人に触れ心安らぐ時間を過ごしたことでしょ。日頃の地域でも安らぐつながりや居場所をみんなで増やしましょう。

発行

社会福祉法人 秋田けやき会
御所野地域包括支援センターけやき
〒010-1412
秋田市御所野下堤五丁目1番5号
電話 018 (826) 0651 / 代表
FAX 018 (826) 0652